

禅の友

Zen no Tomo

7

July 2020

特集 お盆





ご本山だより 大本山永平寺 【川作務】

大本山永平寺 ☎〇七七六・六三・三一〇二

空の青さが夏らしく輝きを増して

きました。何もしていなくても流れ落ちる汗が、またこの季節が巡ってきたことを教えてくれます。街の喧騒から遠く離れた永平寺では鳥の声とともに、川のせせらぎが絶え間なく耳に届きます。門前街の参道から寂光苑へと

つながる散策道に添うように流れる、苔の緑が美しい永平寺川の音です。

修行僧たちは年に数回、この永平寺川の清掃「川作務」を行います。景観的な理由のほかにも、堆積した枝葉が水をせき止め、大雨により濁流となつて下流へ押し寄せないように気持ちを込めて行っております。ほかの季節では身を切るように感じた川の水は、この厳しい暑さの中ではひと時の涼をもたらしてくれます。溪谷を抜ける清涼な風を感じながら、明るい表情で作務を続ける修行僧の汗はまぶし

く感じます。

永平寺の正門には四角い石の門柱が立っております。

そこには「杓底一残水（杓底の一残水）汲流千憶人（流れを汲む千憶人）」の文字が刻まれております。

ここ永平寺の正門の中では、厳しい修行生活が送られています。だからといって、それは山外の人々の日常生活とまったくかけ離れたものではありません。ヒシヤクの底に残された僅かな水も決して粗末には扱わない、そのように生きる決意と行動によって修行になるのです。修行僧の行いに現れてくる一つの作法には、どれほどの汗が流れたのでしょうか。しかし、彼らは汗を拭くとまた何事もなかったように作務に戻ります。目の前にある、為すべきことをただ為すために。





ご本山だより

大本山總持寺

【お盆を迎えて】

御仏は淋しき盆とおぼすらん

大本山總持寺 ☎〇四五・五八一・六〇二一



アジサイと萩

總持寺では七月がお盆の時節です。お盆だけに限られたことではありませんが、亡き人を思い出してその生き方を学び実践するように心がけることが大切です。

その上で、おかげさまでこのように暮らしています、と故人に報告することが何よりの供養になるのです。

例年、總持寺では七月一日より十日まで施会せきえ法要が行われ大勢の檀信徒が参詣さんぎされますが、今年は感染症の影響で参詣をご遠慮いただき、僧侶のみで法要を修行いたします。

また、お檀家を一軒ずつ周る棚経も中止し、代わりに大祖堂裏手の墓地に於いて、希望される方へ「お盆の墓経」を行うことにいたしました。

更に、毎年十七日から三日間行われ

る「み霊祭たまり納涼盆踊り大会」と「万灯会供養」も止むなく中止といたしました。

横浜鶴見を代表する夏の風物詩としてすっかり定着し、地元と本山を繋ぐ大切な行持だけに大変残念ですが仕方がありません。

緊急事態宣言が解除されても感染リスクは残ります。今年はこの形でのお盆となりますが、みな心を込めてご供養申し上げます。

表題は小林一茶の句です。新型コロナウイルスの影響で、ご先祖さまも「今年のお盆は淋しい」とつぶやいておられるかもしれません。

そんな中、二年前に植え替えたアジサイが順調に育ち、萩など他の植物と共に見る人を癒してくれます。

選・坊城俊樹

春眠や父を遠くに見て覚める

岩手県 関合新一

評 シンプルな措辞によって作られた句だが、この平易な表現に深みがあることに好感を持つ。「春の夢」というものは、色で喻えるなら人肌のような色。その暖かい色彩は遙か昔に亡くなった父上との思い出の日々の象徴なのだろうと思う。

突く音のかなしき調べ紙風船

大阪府 花谷広文

評 「紙風船」は富山の薬売りのオマケであったが、単なる風船とは異なる。それを突く紙の音は何か過去や故郷のことを思い出さずにいられない。同時にそれは、亡くなった人や離れたばなれの友人などへの郷愁へと繋がるのである。

◆ 野のすみれ何も知らずに陽を受けて 福井県 廣瀬しのぶ

◆ スキップの上手な少女桃の花 山口県 藤野祥子

◆ 半世紀友でありしよ春の星 静岡県 大橋 蒔子

◆ 返答は飛ばした輪ゴム菜種梅雨 千葉県 須見祥子

◆ 春霜や菩薩見守る大寝釈迦 山口県 栗屋 邦夫

◆ 寺の門法座燐りの朧月 福岡県 小金丸 速子

◆ 万愚節ばんぐせつどぎも抜くよな嘘は出ず 神奈川県 小野沢 邦彦

◆ 山吹の今日花も葉も晴れ姿 千葉県 甲斐 勇

◆ チケツトの半券二枚春惜しむ 東京都 友野 瞳

◆ 磨かれし真赤な外車こうさへも黄沙 岐阜県 大下 雅子

選者吟

おともだちあまりみないの桃の花 俊樹

作句小見 上五と中七の部分は口語体である。この句は、私の娘が幼稚園のころに話したそのままの句である。なんだか哀れに思ってたのだが、ちょうどその頃、近所の路地に桃の花が満開であった。あたかも娘の友だちのように。

選・長澤 ちづ

羚羊が鶉ノ巢断崖斜降する海辺の塩を舐
めに來たらし

岩手県 関合 新一

評 鶉ノ巢断崖は岩手県海辺の標高二〇〇メー
トルの断崖。その名は川鶉の営巣場所に由来
する。近くの山に棲む羚羊が塩分補給のため
に断崖絶壁も厭わずやって来る。それを目の
当りにした驚きと共に、命をつなぐ知恵への
感動がこもる。

吊るされた裸電球あつかつた父してくれ
し肩車の先に

奈良県 鈴木 重雄

評 幼いころの思い出を、父がしてくれた肩車の
先の裸電球の熱を通して、感覚的に表現して
いる。傘がない裸電球は光が拡散して暗く時
代の昏さにも繋がる。しかし親子の愛は深い。

◆ 壇より落つる水音ここちよし河面を染むる春の夕映え
福岡県 三吉 誠

◆ 通勤の往復二時間節約すテレワークにてクリック二秒
千葉県 富野 光太郎

◆ 風呂からあがれば足裏に心地よい疲れ残りし遠き日の田植え
三重県 西村 廣視

◆ ネモフィラの花青空との境なし広野一面染めて咲く蒼
東京都 長谷川 瞳

◆ トラツクの牛が振り向き啼く声に牛舎の牛らもみな啼き交わす
福島県 大槻 弘

◆ 歴史的な少雪素直に喜ぶな夏にお返し来そうでならぬ
福島県 西木 甚

◆ 雨の日の母に寄り添い縁側で裁縫おそわりし幼き思い出
京都府 内田 孝子

◆ 人間の嫉み僻みに妬みまで詰めて大きな布袋の袋
島根県 横山 豪吾

◆ 見なれたる景色も今朝は真新し鳥は囀り花は咲き満つ
鳥取県 眞山 博充

◆ 母校で活気失う集落に追打ちかける祭りの中止
鳥取県 山本 浩一

選者誌

四十雀がしきりにお喋りする午後をわれは

黙せり疫病のせや

ちづ

作歌小見 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、外出や集
会を避けなければなりません。テレワークが推奨される中、富野さ
んの時間の把握が興深く、取りあえず「節約」で括る歌ですが、人
と人との関係等考えさせる問が隠れているようです。